



十二社神社

由緒



鎮座地 館山市出野尾宮ノ下四七五
祭神 天御中至尊「あめのみなかぬしのみこと」
 国常立尊「くにのこたちのみこと」
 国狭槌尊「くにさつちのみこと」
 面足尊「おもだるのみこと」
 天忍穂耳尊「あめのおしほみのみこと」
 他七柱
例祭日 十月十七日(現在は十月第二土曜日)
鳥居 神明鳥居
本殿 銅板葺屋根
境内坪数 百七十七坪
神事 例祭日に、神輿渡御
神紋 五三の桐
宮司 富浦瀧淵神社代田健一
氏子数 (正木 諏訪神社 加茂信昭)
 二十八世帯



神社額

出野尾地区の中心部に鎮座する熊野系の神社。創建不明。かつては十二社権現と呼ばれたが、明治の神仏分離で十二社大神に改められた。鳥居と石段は大正六年(一九一七)、手洗石は明治五年(一八七二)の奉納。境内には青面金剛像を刻んだ庚申塔がある。念仏修行仲間十五人によって延享四年(一七四七)に建てられたもの。また一山講中によって明治時代に建てられた石宮もある。

金剛山小網寺



小網坂と呼ばれる急坂を登ると、和銅三年(七一〇)行基が創建したと伝えられる真言宗金剛山小網寺(古称では金剛山大莊嚴寺)本堂の大きな銅板瓦屋根が見えてきます。密教道場として隆盛を極め「安房の高野山」と言われるほど栄えていました。県有形文化財の鑄銅密教法具が、市博物館に寄託されています。
 里見義実が師壇の契り厚く寺領を寄進し、徳川家光からは朱印地二十五石を与えられ、西岬、神戸地区中心に三十三の末寺を抱えていたとのこと。参道より、朱色の仁王門をくぐる時、苔むした急な石段の上に、館山市有形文化財の「聖観音立像」が祀られている、明治初期に建てられた観音堂「安房国札第三十二番札所」があります。本堂の前にかかる梵鐘は、鎌倉の名工物部国光作の「国重要文化財」です。
 「はるばると のぼりてみれば 小あみ山 かねのひびきにあくるまつかぜ」と、この詠歌にも詠まれていた名鐘の響きが聞こえます。



物部国光作の梵鐘 国重要文化財

後藤利兵衛橘義光作の彫刻



木鼻の獅子彫刻



手挟み鳳凰彫刻



本堂向拝を飾る見事な彫刻



豊房地区合同祭

豊房のまつり

祭礼日 十月第二土曜日

豊房地区のお祭りは農村地帯らしく豊年満作を祝う秋祭りです。出野尾地区の十二社神社、大戸の白幡神社、南条地区の八幡神社、古茂口地区の日枝神社の祭礼は、ともに「豊房のまつり」と呼ばれています。この四社の中で年番を中心に毎年祭礼の取り決めを行い、例年十月十七日に開催されてきました。近年は、少子高齢化の影響から十月第二土曜日へと移行し、神輿の出祭と屋台の曳き廻しが行われています。
 午後三時頃にはJA安房豊房支店の駐車場に、大戸・南条・古茂口の屋台として出野尾の神輿が勢ぞろいし、祭りは佳境を迎えます。年番渡しが行われ、各地区そろって祭りの喜びを分かち合います。

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献・史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましてはご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。